

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000047		
法人名	社会福祉法人 健寿会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	佐賀県佐賀市富士町大字小副川562		
自己評価作成日	令和2年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年6月30日	外部評価確定日	令和2年7月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた山紫水明の地で四季折々の美しい景色と温泉入浴を楽しんでいただき、日常生活動作の中でリハビリを取り入れて手足のアロママッサージでリラックスしていただく等、家庭的で安心出来る生活を送っていただけるようサポートしている。また、入居者個々の残存能力を活かし個別に対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

立地環境の良さに加え、地元である熊の川温泉の湯が引かれている事は他事業所にはみられない特長である。自然環境と相俟って最良の福祉環境と謳っている。更に、職員には利用者のこれまでの暮らし方を尊重し、本人が何を考え、何を願っているのか、自身に置き換えてみるという共感の姿勢も窺える。利用者と共に生活を楽しみ、寄り添いながらも過度な介助は避け、残存能力を引き出すことに努めている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ)	自己評価／ユニットB(Ⅱ)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとり個人として尊重し、地域の中で心のふれあい・あたたかさを大切にした寄り添うケアに努める事を運営理念としておりミーティングの際も理念に基づいたサービスの提供が出来るよう話し合いを行い日々の業務に取り組んでいる。	一人ひとり個人として尊重し、地域の中で心のふれあい・あたたかさを大切にした寄り添うケアに努める事を運営理念としておりミーティングの際も理念に基づいたサービスの提供が出来るよう話し合いを行い日々の業務に取り組んでいる。	法人は「施設運営の基本」として4項目を挙げている。これは傘下の事業所全てにおいて統一され、「処遇の方針」も共有されている。休憩室など目に付く場所に掲示し意識付けを図っている。利用者それぞれが自由に時間を過ごし見守られている様子には、それらが常に立ち戻る原点として浸透しているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の介護施設における行事に近隣の保育園、小・中学校、また住民も積極的に参加いただいているが事業所単独での日常的な交流は少ない。立地条件から困難な側面もある。	併設の介護施設における行事に近隣の保育園、小・中学校、また住民も積極的に参加いただいているが事業所単独での日常的な交流は少ない。立地条件から困難な側面もある。	自治会には加入していないが、広い敷地内に複数の事業所を有する法人として、また地域の基幹施設として住民にとっては拠り所である。町主催のふれあい祭りでは認知症相談コーナーや福祉用具の展示を行い専門知識を活かした貢献も行っている。自己評価に記すように馴染みの方々がGHを訪れることは少ないが、法人全体で行う催し物での交流は出来ている。地域と繋がりを保ち基盤を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、介護者教室や生活・支援サポーター養成事業に取り組んでいるが今年度は実施しておらず。今年度は、富士町ふれあい祭りに参加し、地域の方たちと交流を図っている。	例年、介護者教室や生活・支援サポーター養成事業に取り組んでいるが今年度は実施しておらず。今年度も、富士町ふれあい祭りに参加し、地域の方たちと交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	概ね2ヶ月毎に開催し日頃のサービ スの内容や入退居状況等情報提供 を行い地域の方から意見や感想等 いただきサービスの向上に活かして いる。地域代表の方と行政職員の方 に参加いただいている。	概ね2ヶ月毎に開催し日頃のサービ スの内容や入退居状況等情報提供 を行い地域の方から意見や感想等 いただきサービスの向上に活かして いる。地域代表の方と行政職員の方 に参加いただいている。	約40分の会議である。メンバーでも ある家族にとっては利用者の状況 や活動内容など詳しく聞ける機会でも ある。地域代表者からは地元なら ではの情報が寄せられ、季節毎の 見所や危険箇所に至るまで役立つ 事は多い。メンバー同士が顔見知り となり相談し合う場面もある。しか し、限られた時間では事業所からの 報告等で多くを費やしている事も否 めない。忌憚のない意見を出しても らえるよう、問い掛け方を工夫する など課題も見えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの組み を積極的に伝えながら、協力関係を築くよ うに取り組んでいる	地域の事業や法人事業等、随時話 し合うようにしている。	地域の事業や法人事業等、随時話 し合うようにしている。	法人は富士支所内の地域包括支 援センターにも関わっており、行政 側とは協働関係にある。担当者とは 日頃から顔なじみでもあり、実直に 対応してもらえる関係も築いてい る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着 型サービス指定基準及び指定地域密着型 介護予防サービス指定基準における禁止 の対象となる具体的な行為」を正しく理解 しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	併設施設と合同で身体的拘束等適 正化検討委員会を開催しており、内 容をミーティング時に全職員に伝 達、また、マニュアルの周知徹底や 研修に参加し、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる。	併設施設と合同で身体的拘束等適 正化検討委員会を開催しており、内 容をミーティング時に全職員に伝 達、また、マニュアルの周知徹底や 研修に参加し、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる。	入居契約時に指針の説明を行って いる。職員は研修を受ける機会も多 く、年に一度は自己チェックが実施 され、結果も公表している。職員は 身体拘束の内容とその弊害も理解 しており、これまでにその事例はな い。日中、玄関に施錠はなく、職員 の目配り等で安心で自由な生活が 支援されている。仮に外へ向かう利 用者があっても行動を抑えることは ない。納得するまで暫く一緒に歩く のが基本である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等に ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内での虐待が見過ごされることが ないよう注意を払い、防止に努めている	併設施設と合同で高齢者虐待防止 委員会を開催しており、研修の実 施、話し合いを行い、具体的な介助 方法を職員間で共有し、虐待防止 に努めている。	併設施設と合同で高齢者虐待防止 委員会を開催しており、研修の実 施、話し合いを行い、具体的な介助 方法を職員間で共有し、虐待防止 に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での研修会や機会があれば、外部の研修会への参加をしている。必要性のある方は併設施設の担当者と連携し相談を受けている。	併設施設での研修会や機会があれば、外部の研修会への参加をしている。必要性のある方は併設施設の担当者と連携し相談を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ、家族や利用者とゆったりとコミュニケーションを図れるよう配慮し、不安や疑問が残らないよう関わりを行っている。	契約時は時間をかけ、家族や利用者やゆったりとコミュニケーションを図れるよう配慮し、不安や疑問が残らないよう関わりを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族へのアンケート実施で意見を頂いたり、運営推進会議で地域や行政代表の方の意見を運営に反映出来るように努めている。	利用者や家族へのアンケート実施で意見を頂いたり、運営推進会議で地域や行政代表の方の意見を運営に反映出来るように努めている。	家族の来所は多い。職員は直接会話が出来る機会を大切にしており、世間話等も交えながら、なんでも話してもらえるよう努めている。行事で交流できる機会も同様である。遠方に住む家族や、なかなか会えない家族には電話を掛け、定期的な近況報告も行っている。法人のHPには事業所内の様子が掲載され(顔はモザイクあり)、家族にとっては日常の一コマが垣間見られる。また、利用者と家族双方に尋ねる満足度アンケートがあり、結果はケアに活かされている。訪れる家族にも高齢化がみられ、体調を気遣い声を掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングを実施し、管理者、職員との意見交換や気付きノートを活用し情報の共有を行っている。また、管理者は現場での業務を行っているため、普段より職員の意見や提案を聞く機会を多く設け反映出来るよう努めている。	毎月、ミーティングを実施し、管理者、職員との意見交換や気付きノートを活用し情報の共有を行っている。また、管理者は現場での業務を行っているため、普段より職員の意見や提案を聞く機会を設け反映出来るように努めている。	職員会議は概ね一時間、休みの職員も出席し、2つの建物それぞれに開いている。利用者毎の担当職員による状況報告が主であり、伝達講習や気付きノートからの提案等も諮られている。職員は自由に発言し、現場の声は法人上席にも届きやすい。管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、定時での帰宅や日頃からのコミュニケーションも心掛け、変化があれば早く気付けよう努めている。法人内の異動では、様々な部署を経験することは職員のスキルアップに繋がると捉えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や会議等での様子を総合的に見て、個々の課題作りや役割等の見直し、研修への参加を促す等行い、向上心が持てるよう努めている。	勤務状態や会議等での様子を総合的に見て、個々の課題作りや役割等の見直し、研修への参加を促す等行い、向上心が持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、勉強会やミーティング等を利用してケアの統一を図れるように検討している。また、可能な限り研修を受ける機会を作っている。	年間計画を立て、勉強会を実施している。気付き・疑問点などの情報を共有化し勉強会やミーティング等で話し合う場を作っている。また、可能な限り研修を受ける機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の他事業所の職員との交流、意見交換等を定期的に行っている。	県内の他事業所の職員との交流、意見交換等を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ)	自己評価／ユニットB(Ⅱ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃よりコミュニケーションを図り、その中から気持ちを汲み取り、ケアを行っている。また、気付きノートを活用し、会議等で職員間の情報交換を行い、共有している。	日頃よりコミュニケーションを図り、その中から気持ちを汲み取り、気付きノート活用でケア統一を行っている。また利用者アンケートを行い要望を実行する事で質の向上に努めており、会議等で職員間の情報交換を行い、共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてからも面会時や電話連絡の際、定期的に機会を作り対応している。	入居されてからも面会時や電話連絡の際、定期的に機会を作り対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報やアセスメント作成時に情報収集を行い、相談内容に応じて医療、相談機関等の利用を行うよう努めている。	基本情報やアセスメント作成時に情報収集を行い、相談内容に応じて医療、相談機関等の利用を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や慣わし、畑作り等で利用者の方から学んだり、洗濯物たたみや食器拭き等、お手伝いをしていただき、支え合う関係を築いている。	食事や慣わし、畑作り等で利用者の方から学んだり、掃除、洗濯物たたみや食器拭き等、お手伝いをしていただき、支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際には必ず本人の状態をお伝えし、家族面会時は自室へ案内したりと家族だけで過ごす時間を大切にしてもらえるよう配慮している。また、行事参加の呼びかけを行い、共に過ごしていただく機会を作っている。	面会時や電話連絡の際には必ず本人の状態をお伝えし、家族面会時は自室へ案内したりと、家族だけで過ごす時間を大切にしてもらえるよう配慮している。また、行事参加の呼びかけを行い、共に過ごしていただく機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設に近隣の方もおられ、訪問してお話をしたり、訪問された際は自室でお話される機会を作り、支援している。また、家族へ外出の機会を作っていたらよい声掛けしている。	併設施設に近隣の方もおられ、訪問してお話をしたり、訪問された際は自室でお話される機会を作り、支援している。また、家族へ外出の機会を作っていたらよい声掛けしている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネージャー、また利用していたサービス事業所や場合によっては病院関係者からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援を行っている。電話の取り次ぎはいつでも可能であり、年賀状を書く利用者もある。家族の協力を得ながら盆正月の帰宅や墓参りなどにも出掛けている。外出や面会の機会を取り持ち、継続して関係が続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子観察から相性等を把握し、座席の位置や利用者同士の関わり合い、まとまりがある人間作りにも努めている。また、手伝いをしていたり際は偏らず、バランスを考えている。	日頃の様子観察から相性等を把握し、座席の位置や利用者同士の関わり合い、まとまりがある人間作りにも努めている。また、手伝いをしていたり際は偏らず、バランスを考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に必要な時は相談に応じ、サポートを行う事を説明している。	契約終了時に必要な時は相談に応じ、サポートを行う事を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の関わり方から見直しを行い、更に満足度のアンケートの中から意向や希望を汲み取り、本人の思いに添えるように努めている。	普段の関わり方から見直しを行い、本人とのコミュニケーション、生活歴や満足度アンケート、日常会話の中から意向や希望を汲み取り、本人の思いに添えるように努めている。	利用者が想いを話してくれるのは温泉に入浴中のリラックスしたひとときに多い。発語の少ない利用者とは表情など反応を見ながら汲み取れるよう努めている。また、満足度アンケートは日頃のケアを見直すきっかけとなり、真摯に受け止め活かしている。聞き取った想いは気付きノートやケア記録簿に記し共有され、ケアプランへ反映させることもある。利用者が花苗を選び、慣れ親しんだ土を直に触りながら植えていく楽しみに寄り添ったのはその一例である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より情報を得たり、話題等に取り入れる等配慮している。	家族より情報を得たり、話題等に取り入れる等配慮している。また、他の事業所のサービス利用があれば情報の把握を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務帯で記録の申し送りを通じ、情報を共有しながら1日の様子を把握に努め、定期的話し合いの場を持ち、アセスメントに反映させている。	各勤務帯で記録の申し送りを通じ、情報を共有しながら1日の様子を把握に努め、定期的話し合いの場を持ち、アセスメントに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適時カンファレンスを実施し、皆で介護計画を作り上げている。本人、家族も出来るだけカンファレンスに参加してもらい意見を伺っている。参加が難しい場合は、面会時や電話等で要望等を事前に伺い計画に反映させている。	適時カンファレンスを実施し、皆で介護計画を作り上げている。本人、家族も出来るだけカンファレンスに参加してもらい意見を伺っている。参加が難しい場合は、面会時や電話等で要望等を事前に伺い計画に反映させている。	ケアプランの設定期間は3～6か月で、この間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は面会や電話での会話から汲み取っている。当外部評価のアンケートでは殆どの家族が「ケアプランは分かりやすく説明を受け、一緒に話し合っている」と回答している。また毎月の職員会議の中で担当職員が報告をし、検討・分析も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に排泄、食事、服薬、水分摂取量、経過等記録をとっており、各勤務帯で対応の様子や変化等具体的に書くよう努め、勤務者同士の情報の共有と介護の記録の反映に活かしている。	個別に排泄、食事、服薬、水分摂取量、経過等記録をとっており、各勤務帯で対応の様子や変化等具体的に書くよう努め、勤務者同士の情報の共有と介護の記録の反映に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族との会話の中から、または状況が変わった時等の面接の中から要望を取り入れ支援を行うよう努めている。	本人や家族との会話の中から、または状況が変わった時等の面接の中から要望を取り入れ支援を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報を収集する際に、地域資源の状況を出来るだけ把握し、連携するよう努めている。	情報を収集する際に、地域資源の状況を出来るだけ把握し、連携するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居、受診時に本人、家族と相談し、支援しており、かかりつけ医と連携をとっている。また、必要に応じ専門医とも連携を取っている。	入居、受診時に本人、家族と相談し、支援しており、かかりつけ医と連携をとっている。また、必要に応じ専門医とも連携を取っている。	かかりつけとして入居前からの馴染みの医師の元へ通う方や、入居後に協力医への変更を求めた方など、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。診療科目によって病院を探す場合も同様で、まず希望を尋ねている。協力医以外でも往診診療の受け入れがあり、健康面や医療面に不安はないと答える家族も多い。また、職員が付き添い受診に出向く場合、その結果報告は当日中に行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が利用者の状態を把握し、健康管理に努めている。また、利用者の状態変化時は報告、相談している。	看護師が利用者の状態を把握し、健康管理に努めている。また、利用者の状態変化時は報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き、本人の状態の把握と病院関係者と情報交換を行っている。	入院時には定期的に面会に行き、本人の状態の把握と病院関係者と情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最初は入所時に確認し、重度化した場合看取り(終末期)等についての事前確認書にて意向確認し、その後は随時主治医や家族と話し合いの場を持ち、先々の方針と情報の共有を行っている。	入所時に確認を行い、重度化した場合の看取り(終末期)等についての事前確認書にて意向確認を行い、またその後重度化した場合には家族へ意向確認を行う。その後は主治医や家族と随時話し合いの場を持ち、先々の方針の検討と情報の共有を行っている。	入居契約時に指針の説明を行っている。まず「事前確認書」があり、その時点での意向を聞き参考としている。容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちも踏まえ話し合いは何度でも重ねる事としている。希望すれば医師の同席もある。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればそれに応える用意もある。職員は法人内の研修も受けているが、ターミナル開始となれば独自の勉強会も開いている。終了後には反省も込めた話し合いがあり、これは利用者へ寄り添ってあげればこの時間である。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は報告を行うと共に処置、対応については勉強会等を行っている。	緊急時は報告を行うと共に処置、対応については勉強会等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを職員が周知しており、地域の消防団参加にて、併設施設と合同の避難訓練を行っている。	災害時マニュアルを職員が周知しており、地域の消防団参加にて、併設施設と合同の避難訓練を行っている。	避難訓練は法人施設合同で行っている。夜間は想定のみで昼間帯に実施しているが、人員配置を夜勤者のみのケースにし避難誘導を試みることもある。限られた人員で被害を抑える方法を実践している。利用者も一緒に避難を体験しており、職員は消火器の使い方も承知している。非常食や水、寒さを凌げる物は法人で一括備蓄している。自然災害では、地震以外のリスクは低い立地であると考えている。訓練によって課題や反省点があれば、終了時に全員に周知され速やかに改善されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ)	自己評価／ユニットB(Ⅱ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、さりげない支援、礼儀をわきまえた言葉使い等対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、さりげない支援、礼儀をわきまえた言葉使い等対応している。	事前の情報によっては入居当初のケアを同性とすることもある。接遇の研修もある。トイレや入浴の介助では羞恥心等に最も配慮を要する場面だが、小声での誘導やドアはきちんと閉める事、見え難い立ち位置でのケア等々、細かい支援が窺える。また、個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、業務の連絡であっても固有名詞等は声の大きさに注意を払っている。所内での写真掲示等は入居時に承諾を得ているが、HP上での掲載にはモザイクを掛ける気遣いが見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やその日の作業等、日常の中で場面を作るよう配慮しており、介助の前は本人の同意を得てから対応している。	食事やその日の活動等、日常の中で場面を作るよう配慮しており、介助の前は本人の同意を得てから対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時や就寝時間等、生活の流れを利用者のその日のペースに合わせて支援を行っている。	朝の起床時や就寝時間等、生活の流れを利用者のその日のペースに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、入浴後等、一人ひとり職員がついて、本人の意向を第一に考え、整容を行っている。	毎朝、入浴後等、一人ひとり職員がついて、本人の意向を第一に考え、整容を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ)	自己評価／ユニットB(Ⅱ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は出来るだけ共に食事を摂るようにしており、個人に応じた食器での提供やゆっくり楽しみながら食べていただくよう配慮を行っている。また、個々の能力に応じて下準備、食器拭き、配膳等していただいている。必要に応じて、食事形態の検討も行っている。	職員は出来るだけ共に食事を摂るようにしており、個人に応じた食器での提供やゆっくり楽しみながら食べていただくよう配慮を行っている。また、個々の能力に応じて下準備、食器拭き、配膳等していただいている。必要に応じて、食事形態の検討も行っている。	食材配達業者との契約があり献立も自ずと決まっている。利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握をしておき、苦手な食材・献立には予め変更が出来る。また皆で育てた野菜が採れると一品増えたりする。出来るだけ自分で口へ運んでもらいたいとの想いから器などを工夫し、介助は最小限に止めている。職員と利用者は同じテーブルで、検食者以外は持参の弁当を広げ一緒に食事を楽しんでいる。また、誕生会では家族が訪れることも多く、本人希望の献立や手作りケーキも用意され、皆で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量はチェック表にて把握している。医師の指示により食事量や形態は個別に対応している。また、排泄面も考慮し、支援を行っている。	食事、水分の摂取量はチェック表にて把握している。医師の指示により食事量や形態は個別に対応している。また、排泄面も考慮し、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、義歯を使用されている方は、毎日、義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。歯ブラシ以外にも、個人に応じた口腔ケア用品にて口腔内環境を整える支援を行っている。	毎食後、口腔ケアを実施しており口腔状態の観察に努める。また、義歯を使用されている方は、毎日、義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表によりパターンを把握し、支援している。また、誘導、介助はさりげなく行い、失禁の対応は、まず、人目の付かないところに誘導する等、プライバシーには十分に配慮している。	排泄チェック表によりパターンを把握し、支援している。また、誘導、介助はさりげなく行い、失禁の対応は、まず、人目の付かないところに誘導する等、十分に配慮している。	排泄に関して自立した利用者もあるが、任せたままでなくさりげなく見守っている。日中はトイレでの排泄が主であり、チェック表を活かした誘導も功を奏している。布パンツとパットの組み合わせで過ごしているのはその一例である。また、使用枚数が減ることは自己負担の軽減にも繋がっている。トイレ内には手すりやひじ掛けが設置され、自立を促す補助具として役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、乳製品を多く取り入れ、出来るだけ自然排便を目指している。また、日常生活の中で便秘体操などの運動と腹部マッサージを取り入れている。	食物繊維、乳製品を多く取り入れ、出来るだけ自然排便を目指している。また、日常生活の中で便秘体操や荘内歩行運動、腹部マッサージ、ホットパックを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に合わせ、昼夜を問わず入浴の支援を行っている。	本人の希望に合わせて入浴の支援を行っている。	事業所の特長は地元の温泉を引いた風呂である。入浴は週2～3回を目安としているが、希望があればいつでも可能である。拒む方には職員のテクニックで対応しているが無理強いはしない。シャワーや清拭等も交え、また入浴しない日には下着肌着の交換も行い、清潔保持に努めている。手すりの設置やシャワーチェア等の備えは安全への配慮であり、脱衣場の暖気を浴室に送ることではヒートショック対策としている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守りつつ、ゆったりと楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子を記録に残し把握を行い、一人ひとりの就寝時間を変えたり、また、日中の活動等を工夫し、生活のリズムを整えるように努めている。	夜間の様子を記録に残し把握を行い、一人ひとりの就寝時間を変えたり、また、日中の活動等を工夫し、生活のリズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書と内服薬と同じ場所に置いており、随時、職員が内容を把握出来るよう努めている。今年度、誤薬事故が発生した為、チェック方法の見直しを行い、与薬する所まで確認するようにしている。	内服薬の説明書と内服薬と同じ場所に置いており、随時、職員が内容を把握出来るよう努めている。また、与薬前には職員2名で確認し、服薬チェックに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや得意な分野を考慮して、利用者と相談しながら行っている。また、外出、散歩等により気分転換を図っている。	それぞれの好みや得意な分野を考慮して、利用者と相談しながら行っている。また、外出、散歩等により気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設で開催される行事、クラブ等へ本人の希望に沿って参加しており、家族への声掛けにて共に外出される事もあり。	併設施設で開催される行事、クラブ等へ本人の希望に沿って参加しており、家族への声掛けにて共に外出される事もあり。	テレビ等からの話題を振れば外出への興味を示す利用者や、自ら希望を口にする利用者もある。家族の協力をお願いしたり、事業所として計画を練ってみたり速やかに検討している。また、広い敷地内での散歩は日常的に行われ、職員は日差しを浴びるメリットも十分に理解している。車椅子使用であっても一緒に外気浴を楽しみ、全く外へ出ないという利用者はいない。近場へのドライブも実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じて金銭管理をしており、外出や使用する機会の際に支援している。	一人ひとりの希望や能力に応じて金銭管理をしており、外出や使用する機会の際に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて行っており、家族にも協力していただいている。	希望に応じて行っており、家族にも協力していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさや光の強さに対する配慮は必要に応じて行っている。リビングに畳間の設置やソファを置いたり、また、季節に応じて壁飾りや生花を飾る等、家庭的な雰囲気作りを行っている。	音の大きさや光の強さに対する配慮は必要に応じて行っている。音楽については馴染みや季節に応じた音楽を流している。リビングに畳間の設置やソファを置いたり、また季節に応じて壁飾りや生花を飾る等、家庭的な雰囲気の中で季節を感じていただいている。	「なごみⅡ」には、先に開所した「なごみⅠ」の設計や使い勝手を参考にしたアイデアが活かされている。少人数で寛ぐ空間が複数用意されているのもそのひとつである。どちらも利用者の動線上に通行を妨げる物はなく、廊下では日課の歩行訓練をする姿も見られる。音や光の調節、また畳間やリビング内の様子は自己評価に記す通りである。現在、新型コロナウイルス感染症による非常事態が続く中で、2時間毎の換気やこまめな消毒が徹底して行われている。トイレや浴室はきれいに掃除され臭気には特に注意している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳間やソファを置いたり、リビングスペース等、お気に入りの空間を選択出来るようにしており、テラスにテーブルベンチを設置し有効活用している。	畳間やソファを置いたり、リビングスペース等、お気に入りの空間を選択出来るようにしており、箱庭の前にテーブルと椅子を設置し有効活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人により持ち込まれている家具等の量は差がある。グループホーム側でも個人の好みに合わせて写真やカードを飾る等の工夫をしている。	当初より、クローゼットを設置せず、個人で用意していただいている。グループホーム側でも個人の好みに合わせて写真やカードを飾る等の工夫をしている。	火気等の危険物以外、居室に持ち込む品物の制限はない。家具等の配置は出来るだけ自宅に似せたレイアウトを心掛け、居心地良く過ごしてもらえるよう支援している。飾り付けは本人に尋ねながら、また家族と一緒にすることもある。衣類等は季節毎の入れ替えをお願いし、掃除は職員が行うが、シーツ交換では手伝う利用者もある。天気の良い日には寝具を干す手間も惜しまない。家庭と同じである。家族が希望すれば宿泊も可能であり、ターミナル期に利用した方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最初は必要のなかった浴槽の手すりや滑り止めのマット、シャワーチェアを設置し、キッチンの作業台の高さも利用者に合わせて低くする等の配慮をしている。また、トイレ迄の距離も短く数の確保も出来ており、車椅子の方でも使用し易い広さにしている。	最初は必要のなかった脱衣場の手すりを設置し、キッチンの作業台の高さも利用者に合わせて低くする等の配慮をしている。また、居室からトイレ迄の距離も短く数の確保も出来ており、車椅子の方でも使用し易い広さにしている。タウパーを置き型より壁掛けにすると事で手拭きがしっかり行われている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない